

信火 しんか

内に催すれば うちもよう

行煙 ぎょうえん

外に顕る そとあらわ

— 善導大師 —



内に感謝の心あれば

外に合掌の花咲く

九十歳をすぎた、もと校長先生がこう言われた。

「日に三度食事をいただいたあと、手を合わせて『ごちそうさん』という前に、もうひとこと『ああ、おいしかった』と付け加えます。その一言で食事の用意をしてくれた嫁が、どんなに嬉しそうな顔をしますか。嫁のニコニコ顔を見ると、自然に心がなごみます。家じゅう明るくなります。

なんのお役にも立たん年寄りですが、お陰でみんなに大事にされています」

それはまさしく人生の達人の言葉だった。相手に無理やり聞かせようとする時、言葉は雑音となる。相手の心に呼びかけようとする時、言葉は「愛語」となる。

総本山 永観堂 禅林寺

命終の時に臨んで

心顛倒せず錯乱せず…

— 善導大師 —



できてますか

死の心づもり

ある中年のご婦人がこんな事を私に話された。

「和尚さん、私がこの家に嫁いできた三十年前、まだ元氣だったおばあちゃんが、ある日こんなことを言ったんです。それは、私に万一のことがあった時にはこれを、と紫色の風呂敷を手渡されました。その中には、ご本山で受けた授戒、五重の血脈と浄衣が入っていたのです。

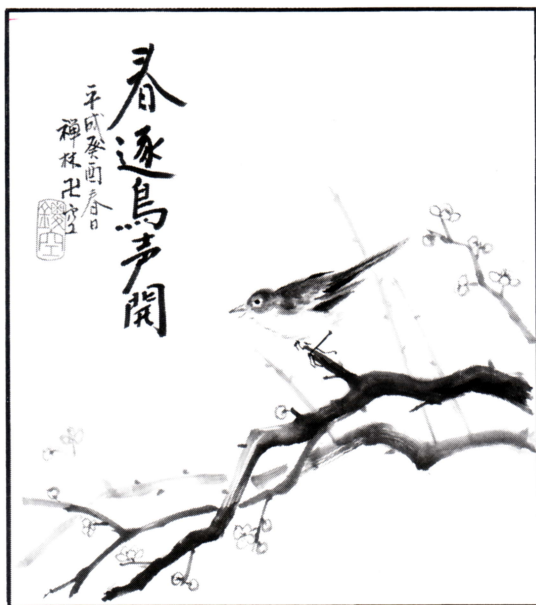
今考えると、おばあちゃんに死の心づもりを教えてもらったような気がします。この年令になってはじめてわかるんですね」と。

一日一日死に近づく私たち。益々信心を深めて、いつか来る死を安らかに迎えたいものです。

総本山 永観堂 禪林寺

朝夕に
みほとけ拜む

よい家庭



“脚下照顧”

朝、目を覚ますと窓の外は一面銀世界だった。雪だるまを作ろう。ぼくはそう思い戸外へかけ出した。まだ誰れの足跡もついていないところを歩いてみると気持がよい。ふと後ろをふり向いてアツと思った。今歩いた足跡が曲がっている。まっすぐに歩いたと思っていたのに……。

“ふり返り 見れば曲がりし 下駄のあと”
そうです。まっすぐな間違いのない毎日を送っていると思っても、ふり向くと曲がっているときがあります。その曲がりに気づかせて頂くのが朝夕お仏壇に手を合わせたときなのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猊下のご染筆です。前号の色紙は、兵庫県城崎郡在住 木多見光治様に当選いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

そごん おんり
粗言を遠離し

ぜんご しめじゅう
善語を修習せん

— 無量寿経 —

功徳

永観ハハセ不僧ハ空



ひとこと
一言が人の心を傷つける

ひとこと
一言が人の心を暖める

お客様があるので、シヨートケーキを買
つてきました。

実は、お客さまも、みんなでいただこう
とシヨートケーキをお持ち下さったのです。
会話もはずみ、ちよつと休憩のとき、ケ
ーキとコーヒーが出されました。

「ん……？ このケーキ、あまりおいし
くないね」と私。家内にひびでつつかれて
ご持参のケーキだと気づいたのです。

言ってしまってからでは、もう遅い。
汗が吹き出て、耳が赤くなって……。

「ごめんなさい」

よけいなことば、足らない言葉。言葉の
大切さに気づかされました。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猊下のご染筆です。前号の色紙は、山口市在住 原田俊子様に当選いたしました。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

みほとけを念ずべし

みほとけこそ

世を救う大悲の父なり

—「六念」より—



ただいるだけで

さきごろ亡くなった仏教詩人の相田みつ
をさんに、こんな詩があります。

「ただいるだけで

あなたがそこに／ただいるだけで／その
場の空気が／あかるくなる／あなたがそ
こに／ただいるだけで／みんなのところがやす
らぐ／そんなあなたに／わたしもなりた
い」

みほとけのお姿を観ることができるとし
たら、また、そのお声を聞くことができる
としたら、この詩のように、ただそれだけ
で、その場の空気があかるくなり、みんな
のところがやすらぐに違いありません。
そして、少し気くばりをしたら、私達だ
って、そういう存在になれるように思えま
す。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂祝下の二染筆です。前号の色紙は、京都市山科区当麻寺檀家 松葉ヨシ様に当選いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

如来の妙なる御すがた
 世にたぐいなく 等しきもの なし
 されば今 敬つて礼拝したてまつる

―日没礼讃―



学生時代、美人の誉れ高かった女性に久しぶりに会うと、別人のように面影が変わってしまっていることがある。逆に、当時あまり目立つ存在でなかった人が、実にいい顔になってハツラツとしていたりする。顔かたちは生来のものだが、その人の人間性というか、内面的なものが表情や動作にあらわれてくる。「どのように生きてきたか」、「どういう出会いを重ねてきたか」という、生きざまによってそれぞれの顔が作られてくる。

どんな人でも、笑顔は美しい。まして、仏さまを拝む人の表情は、もって美しい。

総本山 永観堂 禅林寺

つらつらと我を省りみ
われ かえ

はじめてぞ悟り得たれば
だいしやうじん さと え

踴躍して大精進と
ゆうやく だいしやうじん

喜びの心を発す
よろこぶ おこ

善導大師『六時礼賛』（中夜礼賛）大木惇夫譯



永観ハイラセ鑑堂



さんげの気持ち信ずる喜びを生む

一冊の本を、人に貸したままで、返して貰ってないと思つて、心のなかに、その人を非難する気持ちがあった。その本、その人のことを思うたびに、不愉快な感情が湧き、楽しまない日々だった。

ある時、ふつと書棚の奥を見ると、貸したはずの本がそこにあるではないか。「何だ、返してもらったのを忘れていたのだ」悪いのは自分のほうだった。そうすると、不愉快な感情も消え、その人に対しても親しみを増したようになつた。

私達は、人を非難する前に、自分の所業をどくと反省してみるべきだ。自分を懺悔できるとき、そこに信仰の広いひろい花園が見えてきて、こころは束縛から逃れ、大きな喜びの空を舞うようになるのだ。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猗下のご染筆です。前号の色紙は、高砂市法普寺檀家吉田悦子様に当選いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎切毎月末抽籤で一名に当選。

忘れてもよいこと 忘れてはならぬこと
「父母の恩徳によりて無上の法財を得たり」

—— 西山上人 ——



南方熊楠みなみかたくまぐすという人物がいた。彼は、海外に行けば十数ヶ国の言葉を全て暗記し、その国の言葉で学界に論文を発表した。後に粘菌学ねんきんがくの第一人者になるが、その知識量は度がはずれ、一度聞いたら忘れないという記憶力は想像を絶するものである。こんなに記憶力のよい人物はめったにいない。私達はつい今の事でもすぐ忘れてしまふ。しかし忘れてもよいことと、忘れてはならぬことがあることは、心しておかねばなりません。父母祖先のご恩は決して忘れてはならぬことです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猗下のご染筆です。前号の色紙は、京都市東山区 植松理香様に当選いたしました。

ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

『信心をおこして後には、

学不学は人の心に

したがうべき也』

西山上人「津戸三郎への書状」



人のはからいを越えて！

企業の人事担当で、大学卒の採用に係わっている人の話を聞きました。採用する企業側としては、大学での成績はあまり重視しないのだそうです。それよりも、その学生が、学生時代に何に熱中してきたか？どんな人生経験を積んできたか、ということに注目し、その学生の人間性と、物事に取り組む姿勢を評価の対象にするのだそうです。

念仏のおしえの中に心の救いを求める私達にとっても、仏教を学ぶ、学ばないということは、決定的な意味合いをもっているということなのです。

それよりも、私達を救いとらないではおかないと誓われた阿弥陀仏の深いおはからいを、信ずることだけが、私達のなすべきことなのです。

総本山 永観堂 禅林寺

忙々たる六道に
定趣なし

善導大師



人の営みのはかなきは
風の中の灯のごとし
日々あわただしく過ごし
迷いの道に定めなし

(意訳)

世の中、便利になるほど本来ゆとりが生まれるはずなのに、逆に気ぜわしくなっている。暮しを楽にするはずの文明の利器に追いつてられて、人はセカセカ生きている。たとえば、エレベーターに乗った時、たいていの人が、行く先の階と「閉」のボタンを押す。三秒待てばドアは自動的に閉じるのに、それはもう条件反射みたいになっている。三秒すら、待てないのだ。イライラ、セカセカ生きる私たちは、エレベーターで「閉」のボタンを押すように、心にも「忙」を押しているのではないだろうか。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猗下のご染筆です。前号の色紙は、尾道市宝土寺檀中・高垣正様に当選いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

念仏といふは他力なり

他力といふは

我が心を本とせず

もと

西山上人「述成」



一生を夢とは

知らず

さめざわに

夢と

知りゆく

ゆめのせのち



禪林ハミゼ花堂



「氣」にチューニングを合わせ

日本古来の武術である剣道や柔道の世界では、「こころろ」ということを大切にします。それを誤解して、いわゆる精神主義というヤツで、「やる氣」と「根性」が重視され、「しごき」という無茶な稽古方法を押つけた結果、多くの有能な若者達が脱落していく結果を招いてしまったようです。

が、本来の武道の求めるところは、そんな精神主義一辺倒ではなかったはず。肉体と精神の限界を知り、そして自己が如何に脆い存在だったか、ということに気づいたとき、私達は、心をとき放ち、宇宙に満ちている「氣」とチューニングを合わせ、その「氣」をわが身、わが心に頂いたとき、武術の究極の目的は果たされたことになるのです。

他力念仏も、「わが心を本とせず」、宇宙に遍満している阿弥陀さまの慈悲という「氣」にチューニングを合わせ得たとき、私達の心には、自ずからそのお慈悲が怒濤となって流れこんでくるのです。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長丹羽観堂現下のご染筆です。前号の色紙は、金沢市安樂寺檀中 島村外枝様に当選いたしました。ご希望の方は「ガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい」切毎月末抽籤で一名に進呈。

学 仏 大 悲 心

善導大師『玄義分』

和 光
同 塵

総本山 禅林寺 第八十七号

法主 東大 臨阿



ゴミを捨てる人は嫌いです

ある国道の交差点に、大きな看板。

若い外国人女性の写真と『私は嫌いです』

の言葉。ここは空き缶ゴミの投げ捨て名所？

これは投げ捨て禁止の看板なのです。しかし

看板も何のその、信号待ちの車からポイポ

イ投げ捨てられ、空き缶ゴミの山。こんな

光景を見ますと、坂村真民さんの詩が思い

出されます。

わたしは母から

おおくのものを学んだ

その最も大きいものは

心づかいだった

いつも他人のことを思えという

いつくしみの心と

いたわりの心であった

(母から学んだもの)

総本山 永観堂 禅林寺